

■平成28年度第2回さいたま市地方創生・成長戦略

統合推進本部会議議事概要

【日 時】 平成28年9月1日（木） 午後3時40分～午後5時00分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、遠藤副市長、日野副市長、本間副市長、水道事業管理者、教育長、技監、都市戦略本部長、総務局長、財政局長、市民局長、スポーツ文化局長、保健福祉局長、子ども未来局長、環境局長、経済局長、都市局長、建設局長、消防局長、幹事区長（西区長、緑区長）、理事（秘書・総合調整担当）、総合政策監
PTリーダー（シティセールス部長、スポーツ部長、商工観光部長、環境共生部長、都心整備部長、危機管理部長）、
WGメンバー（子育て支援政策課長、高齢福祉課長、住宅政策課長）

【議 事】（1）さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略のフォローアップについて
（2）首都圏広域地方計画に係るプロジェクトの進捗について
（3）三世同居・近居支援検討ワーキンググループの進捗について
（4）地方創生推進交付金について
（5）今後のスケジュールについて

< 議 題 説 明 ① >

議題（1）さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略のフォローアップについて、事務局（都市経営戦略部）から次のような説明があった。

- ・ 昨年11月に策定した総合戦略について、KPIの達成度の評価、効果の検証に関して、各所管において内部評価を実施し、また外部有識者から意見をお伺いしたので、その結果概要を報告する。
- ・ 内部評価は、総合戦略においてKPIを設定した対象項目65項目について、各KPIの達成度の評価を行った。
- ・ 評価方法については、総合振興計画後期実施計画やしあわせ倍増プランと同様に、達成度に応じてA、B、Cの3段階評価とした。
- ・ その結果、AとBを合わせた「目標を達成」した項目は、50項目、全体の78.2%だった。
- ・ 6頁は、評価結果を基本目標ごとに整理したもの。基本目標の2、3、5でC評価の項目が多くなっている。
- ・ 内部評価のほかに、7月29日にさいたま市まち・ひと・しごと創生有識者懇談会を実施した。
- ・ 委員をお願いした有識者については、産官学金労言の各分野から資料に記載して

いる方々に就任していただき、地方創生先行型交付金の対象事業とした8事業について、意見等を頂いた。

- ・ 各事業に共通した意見としては、KPIの設定に当たっては、もう少し工夫の余地があるのではないか、市民への情報提供を積極的にわかりやすく行う必要がある、などの意見を頂いた。

< 意見等 ① >

特になし

< 議題説明 ② >

議題(2)首都圏広域地方計画に係るプロジェクトの進捗について、事務局(都市経営戦略部)から次のような説明があった。

- ・ 首都圏広域地方計画に位置付けられたプロジェクトのうち、さいたま市、埼玉県、関東地方整備局で構成する「東北圏・北陸圏・北海道連結首都圏対流拠点創出プロジェクト」の進捗状況を報告する。
- ・ 今年度は3種類の会議により取組を進めている。
- ・ 1つ目が、PT会議である。この会議は、国・県・さいたま市を構成メンバーとし、さいたま市が主査(リーダー)となっている会議であり、首都圏広域地方計画協議会と連携しながら、首都圏の対流拠点の創出に向けて、各種施策の目標設定・展開・具体化、進捗状況の検証等を行うこととなっている。
- ・ 本年度は、5月と6月にPT会議を開催し、今後のPJの進め方の確認、PJの目標設定の方向性などについて協議を行った。
- ・ 2つ目が、首都圏広域地方計画担当課長等会議である。
- ・ この会議は、首都圏の国の関係各地方行政機関、関係都県、関係指定都市などの担当課長等で構成される会議で、5月に開催され、主要なPTから進捗状況等の報告があった。
- ・ 3つ目が、庁内に設置している首都圏対流拠点創出関係部局会議である。この会議は、庁内における首都圏対流拠点創出PJの推進組織であり、7月に第1回会議を開催し、先程のPT会議、課長等会議の状況を報告し、情報共有を図ったところである。
- ・ プロジェクトの今後の進め方としては、引き続きPT会議を基本に取組を進めていく。
- ・ まず、プロジェクトの個別事業やポテンシャルについては、字面だけでは中々イメージが沸きにくいいため、観光・防災・インフラの分野ごとに図面に落とし込んだ検討図を作成していくこととしている。そして、首都圏対流拠点創出PJの10年後の目標とアウトカム指標を設定していく。
- ・ なお、PJの取組の周知・共有や関係者の機運醸成のためのシンポジウムの開催については、現在、関東地方整備局及び埼玉県と調整をしているところである。
- ・ 今後の取組を進めるに当たっては、庁内の関係部局及び関係部局会議などと十分連携を図っていく。

< 意見等 ② >

特になし

< 議題説明 ③ >

議題（３）三世同居・近居支援検討ワーキンググループの進捗について、事務局（都市経営戦略部）及びワーキンググループから次のような説明があった。

- ・ このワーキンググループは、昨年の総合戦略策定の最終段階において、更なる同居・近居支援策の検討を行うよう指示があったことから、今年の３月に、まずは関係課として子育て支援政策課、高齢福祉課、住宅政策課に集まっていたき、WGを立ち上げた。
- ・ 今年はWG会議を３回開催し、検討を行ってきたので、検討状況の中間報告をさせていただきます。

< 意見等 ③ >

特になし

< 議題説明 ④ >

議題（４）地方創生推進交付金について、事務局（都市経営戦略部）から次のような説明があった。

- ・ 本市の地方創生関係の交付金の活用については、総合戦略の柱のひとつである東日本各都市との連携による事業を中心に、地方創生先行型交付金や地方創生加速化交付金を活用してきた。
- ・ 平成２８年度は、各自治体において総合戦略の事業推進段階となることから、国においては予算額１，０００億円の地方創生推進交付金を創設している。
- ・ 交付申請の前提として、地域の民間事業者などと連携し、自主的で先駆的な事業を盛り込んだ地方再生計画を策定し、国から認定を受ける必要がある。
- ・ この交付金の活用にあたって、これまで地方創生関連の交付金を活用し、東日本との連携の流れを作ってきた経緯もあることから、東日本連携推進事業の枠組の中で考えているため、その方向性で良いか御意見をいただきたいと考えている。
- ・ 本年度から５年間における交付金の活用計画は、資料右側に記載のとおり、東日本連携支援センターに関連する事業を予定しているが、詳細な点については、今後経済局等と検討していく。

< 意見等 ④ >

- ・ 東日本連携を進めると、地域から人を奪ってくることになるのではないかと懸念の声がある中で、共存・共栄の関係をどう構築していくかが、重要となってくる。例えば、東京から地方、あるいは地方から東京へ出る際の拠点としてのさいたま市という流れを作るための事業に対して、企業立地補助金等をあてがっていくような工夫が必要だと思う。そういったケースだと相手先の自治体からの推薦状が必要となるが、そのような工夫をした事業立地の支援策があると、アピールにもなるのではないかと。ぜひ、御検討をお願いしたい。

- 方向性としては分かるが、現実的にスキームとして成り立つかは疑問である。それぞれの企業の立地性を活かし、大枠としては、沿線の地方において生産を行い、首都圏での拠点としてさいたま市で営業・連携等を行うという考えでいる。
- ・ 大宮駅周辺において拠点性を高めていくには、アピール力の高いものが必要だと思ふ。
- まずは、供給部分を確保するのが一番の課題と認識している。
- ・ 供給する中で、選別できるのであれば、そういったところにするべきだし、そうでなければ、新たな支援制度を作らなければならない。国の施策の方向性が東京一極集中の解消である中で、そのカギが“さいたま市”だという打ち出しができないかと考えているところ。一緒に考えていきたい。
- 東日本の営業拠点にするとなると、機能集約という面が大きく、オフィスでいうとワンフロアでおさめようとする、相当程度の規模が必要となってくる。そのような供給ができるのかというのが課題である。
- ・ 都市局と連携して、例えば再開発事業での誘導など、検討して行ってほしい。

< 議 題 説 明 ⑤ >

議題（５）今後のスケジュールについて、事務局（都市経営戦略部）から次のような説明があった。

- ・ 今後のスケジュールについては、１１月に第３回の本部会議を開催する予定である。

< 意 見 等 ⑤ >

特になし

- ・ 全体を通して、市長から以下のとおり指示があった。
(市長指示)
- ・ 三世同居・近居支援については、他の自治体の事例を踏まえつつ、本市では特に「子育て世代への支援策」という位置付けを明らかにし、子ども未来局が主管局として、パッケージ施策を取りまとめていくこと。ワーキンググループの最終報告は、年内を目途に、この本部会議に諮るよう、検討を進めてほしい。
- ・ 第１回目の本部会議においても、「平成２８年度は『成果』を出していく年である。」と伝えたところではあるが、各局・各PTにおいては、引き続きスピード感を持って事業の推進に取り組んで欲しい。
- ・ 特に、成長戦略のプロジェクトでは、細かな事業成果が多いので、プロジェクト全体でのより大きな成果を打ち出していくことが重要。今後、各PTでは、アウトプットだけではなく、「アウトカム」としての成果を、年度末にどう打ち出していくかという観点から、十分に議論を重ねていくこと。